シリーズ掲載

言語活動の充実に向けたはじめの一歩

「学びがいのある魅力的な学習課題づくり」 Vol. 2

中学歴史の授業づくりのヒント ～小・中の教科書の比較～

《中学校歴史の古代「律令国家の成立と平城京」を例に》

この時代の学習で思い浮かぶのが、聖武天皇による大仏造営ですね。小学校で使用している教科書を見ると、「聖武天皇は、どうして奈良の大仏をつくらせたのでしょうか。」という問いがあり、その理由を追究するという流れになっています。（『新しい社会　6年上』東京書籍）

もしも、これと同じような問いで中学校でも授業が行われたとすれば、生徒たちは小学校と同じ学習を繰り返し行うことになってしまいます。

ご存知の通り、

小学校では人物学習が中心

ですが、

中学校では時代の特色を理解する学習が中心

となります。

中学校で使用している教科書を見ると、「律令国家はどのようにしてできあがったのでしょうか。」という問いがあり、「平城京という大きな都をつくることができた理由を簡単に説明しましょう。」という課題が提示されています。そして、和同開珎などの貨幣の発行について、写真資料が掲載されるなど広く紙面を割いて紹介されています。（『新しい社会　歴史』東京書籍）

小・中の教科書を比較してみると、中学校での授業づくりが見えてきます。

それは、

> 古代とは、初めてお金を発行した時代であり、お金を発行して得た収入が都づくりに用いられたこと。また、お金を発行することができたのは、強制的に使用させることができる強力な中央集権体制が構築されていたからであり、**それが、古代、特に奈良時代の特色である**ということ。

をとらえさせることが、授業をつくる上で重要であるということです。

課題づくりをするにあたっては、まず初めに、小学校での学習内容を活用しながら、我が国が律令国家として形づくられていったことを大きくとらえさえます。そして、律令国家の確立とお金の発行とのかかわりについて考えさせることにより、

『なぜ、和同開珎が発行されたのだろうか』

という学習課題をつくることができます。

導入・展開で**お金を発行した理由を考えさせることによって、時代の特色を理解させます。**さらに、身に付けた知識を使って都づくりや大仏造営が可能な理由を考えさせます。導入から展開、まとめ、さらに発展まで一つの授業として成立することになります。

このような学習展開により、東大寺の造営もお金の発行で得る収入（銭貨発行収入）に頼っていたことが分かり、**都づくりと大仏造営は、お金の発行で得る収入によって行われたという共通点がある**こともとらえることができるでしょう。

★まとめ★

小・中の教科書を比較してみると、「どんな授業を行えばよいのか」についてのヒントが見えてきます。そこから、中学校ならではの〝学びがいのある魅力的な学習課題づくり〟が始まります！

次回は、導入時の資料提示において、歴史的事象を視覚化する工夫から学習課題をつくることを紹介します。単元は、小学校６年歴史「源頼朝と鎌倉幕府」です。

これは、「源頼朝と鎌倉幕府」の単元における知識の構造図です。

〔中心概念〕に迫るために、人物肖像画を効果的に使って学習課題づくりをします！